

を広げることができます。私自身バトミントン部に所属しており、週一回2時間程度仲間と一緒にバトミントンを楽しんでいます。バトミントン部は分子研に来てから始めたような初心者の方でも気軽に楽しめますので、分子研に来られた際は是非バトミントン部をよろしくお願いします。

最後に分子研がある岡崎について少し紹介します。岡崎市は人口40万人弱

の都市で、スーパーは所々に点在しており食料品を買うのには困りませんし、分子研から歩いて20分くらいの所には生活用品全般を取り扱っている大型のショッピングセンターもあります。一方で、名古屋や浜松などの大都市にも簡単に行くことができ、名古屋までは電車で30分もかかりませんし、浜松も電車で1時間弱で行けます。さらに岡崎からはレジャーに出かけるのもそれ

ほど苦ではありません。例えば、三河湾には車で30分くらいで行けますし、キャンプ場は岡崎や豊田に沢山ありますし、スキーやスノーボードをするのにも岐阜や長野であれば日帰りで行くことができます。

以上、思いついたことを並べただけの文章になってしまいましたが、分子研や岡崎の魅力が少しでも読んで頂いた方に伝われば幸いです。

E V E N T R E P O R T

学生報告 学位期授与式と学術交流会

物理科学研究科構造分子科学専攻平成21年度修了 浅野豪文

平成21年3月24日(火) 湘南国際村葉山において平成20年度学位記授与式が開催されました。開式に先立ち、ドイツを中心に国際的に活躍されている藤井隆史さんと白水芳枝さんのピアノデュオによる演奏が行われ、素晴らしい音色に聴き入りました。式典では高畑尚之学長より修了生一人一人に学位記が読み上げられ、直接手渡されました。また、学長から鼓舞激励のお言葉を頂き、これからの未来に対する希望と覚悟で身の引き締まる思いでした。分子研での三年間の生活や研究活動などの様々な記憶が蘇り、非常に感慨深いものとなりました。最後に修了生から謝辞が述べられ、式典は閉式となりました。

ました。

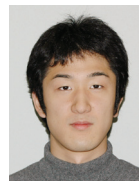
学位記授与式の前日には「The Academic Exchange Sessions FY2008」の学術交流会が開催されました。普段は各基盤研究機関で研究を行っている総研大生が集い、研究成果を発表し、議論や交流を通して講演者・教員・修了生・在学生との間に学術ネットワークを築くことを目的として毎年、学位記授与式に合わせて行われています。今年度はポスターセッションに加え、「総研大修了後の研究歴・現在の研究について」と「みんなで語ろう～研究者のキャリアパス・欧米およびアジアで働く～」をテーマに総研大修了生である先輩方による講演が行われまし

た。日本と海外との研究環境の違いや視野を広げることの大切さなど大変貴重なお話を頂きました。また、交流会の前夜には理系から文系まで様々な他専攻の学生たちの有志がロビーに集まり、夜更けまで研究の話や自分たちの未来について語り合い、時間を共有できたことも良い思い出となりました。

学位記授与式並びに交流会を通じて異分野の方々と交流を持つことができ、大変有意義な経験になりました。

Toshifumi Asano

兵庫県立大学大学院工学研究科修士課程を修了後、平成18年に総合研究大学院大学物理科学研究科に編入学。現在、生命・錯体分子科学研究領域生体分子情報研究部門宇理須グループで、神経ネットワークの情報処理機構を解析するバイオセンサーの研究・開発に取り組んでいます。



E V E N T R E P O R T

学生報告 平成21年度前期学生セミナー

物理科学研究科機能分子科学専攻 5年一貫制博士課程4年 谷川 貴紀

4月9日から二日間に渡り学生セミナーが葉山で開催されました。本セミナーは在学生の実行委員により運営され、開催に向けて念入りに準備してきました。

今年のセミナーのテーマは「研究者の三原色」。「三原色」とは研究者として必要な三つの要素、「研究能力」「相互理解」「夢」を表したもので、これ



らについて新生に改めて考えていただくというコンセプトです。第一セッション「研究者に必要な能力とは」では、三人の著名な先生方をお招きし、研究者になるまでの体験談について大変興味深いご講演を頂きました。続いて第二セッション「専門を越えた相互理解」では、専門分野を越えた相互理解を目指し、他分野の人が知らない意外な常識について発表しました。ちなみに、このセッションでは私が司会進行をやらせていただいたのですが、またこれが難しいこと。しかし、セッションは笑いや驚きで大いに盛り上がりました。最

後に第三セッション「自分の夢を再認識しよう」では、研究生活で目標を見失いそうになった時に支えとなる自分の夢をより確固たるものにするという企画でした。新生らの熱い思いを聞き、自分の意思も新たにすることができました。こうして学生セミナーは好評の内に幕を下ろしました。

このセミナーで新生の方々で体験したことが、少しでもお役に立てれば幸いです。そして実行委員の皆とは素敵な思い出を作ることができました。皆様本当にありがとうございました。

Takanori Tanikawa

兵庫県立大学修士課程修了後、平成20年に総合研究大学院大学物理科学研究科博士課程に編入。分子科学研究所極端紫外光研究施設加藤グループにて、新方式の短波長コヒーレント放射光源の研究開発に従事している。趣味は美味しい店探し。



学生報告 平成21年度前期学生セミナー

物理科学研究科機能分子科学専攻 5年一貫制博士課程1年 片岡 圭太

今年度の学生セミナーも例年通り、入学式に引き続いて行われた。

正直言うと、自分は学生セミナーがとてつもなく面倒くさいものとして考えていなかった。二日間のために3種類もの議題について討論し、発表する。なんでこんなものに参加しなければいけないのか……と。

しかし、実際に始めてみるとその思いは一変した。自分とは全く専門の違う他先攻の人との会話はどれも新鮮であり興味が尽きなかった。また、一度議論が始まると終わる気配が無く、

あれほど嫌がっていたものが楽しくて仕方がなくなっていた。そして学生数の少ない総研大で他先攻の友達ができただけでとても大きな収穫となった。

セミナー自体は「研究者の三原色」というテーマのもとで「研究者に必要な能力」「専門を超えた相互理解」「自分の夢を再認識しよう」という3つ議題が用意されており、それについてそれぞれ異なる方法で議論を進めていった。

各々の内容はここでは割愛するが、どの議題においても先輩方が試行錯誤

して用意してくれたものであったので、自分としてもとてもためになるものであった。

最後に、学生セミナーに参加することによって得たもの（友人や考え）を今後とも大切にしていき、充実した学生生活を送りたいと思う。

Keita Kataoka

日本大学理工学部物質応用化学科を卒業後、平成21年に総研大物理科学研究科機能分子科学専攻へ入学。分子スケールナノサイエンスセンター櫻井グループにて、バッキーボウル合成を足掛かりとしたフラレンの化学的全合成の研究に取り組んでいる。



E V E N T R E P O R T

教員報告 分子研オープンキャンパス2009

2009年度担当教員 物質分子科学研究領域 准教授 西村勝之



2009年6月6日(土)に分子研オープンキャンパスが分子科学研究所において開催された。オープンキャンパスの参加者構成は、沖縄から北海道まで、学部学生21名、修士課程20名、博士課程2名、その他名8名であり、合計51名で昨年度を上回った。

当日は13:15より岡崎コンフェレンスセンター中会議室で、中村所長、永瀬教授、田中教授、筆者の順番で分子研、総研大、共同利用、およびオープンキャンパスの説明を行い、明大寺、山手の両地区を14:00

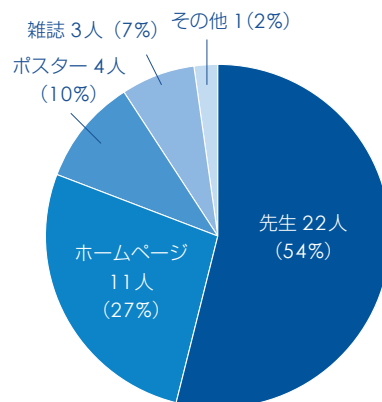
から18:00まで実験室を自由に見学して頂いた。豚インフルエンザ対策のため、急遽、受付およびシャトルバスの停留所の双方に消毒液を設置した。午前中は時折雨が降ったが、午後からは天候は回復し、両地区の往来も活発であった。

アンケートの回収率は昨年より若干高い60.7%に留まった。参加情報の入手先は先生からの紹介54%、ホームページ27%と大きな割合を占め、ポスターを情報入手先とした回答は昨年度の倍以上となる10%と着実にその成果が表れている。しかし、所属の機関でポスターを過去に見たことがないという回答は依然として高く63%を占めた。以上の結果は、本事業が広報室の弛まない努力と大学にご栄転された分子研OB等の分子研に縁のある先生方に支えられた形で成立していることを表していると思われる。

最後に今回のオープンハウスの開催にあ

たりご協力頂いた皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

オープンキャンパス・シンポジウム
情報入手先



総研大の知名度

